

OpenAIが推奨する ChatGPTを最大限活用 するための プロンプトのコツ

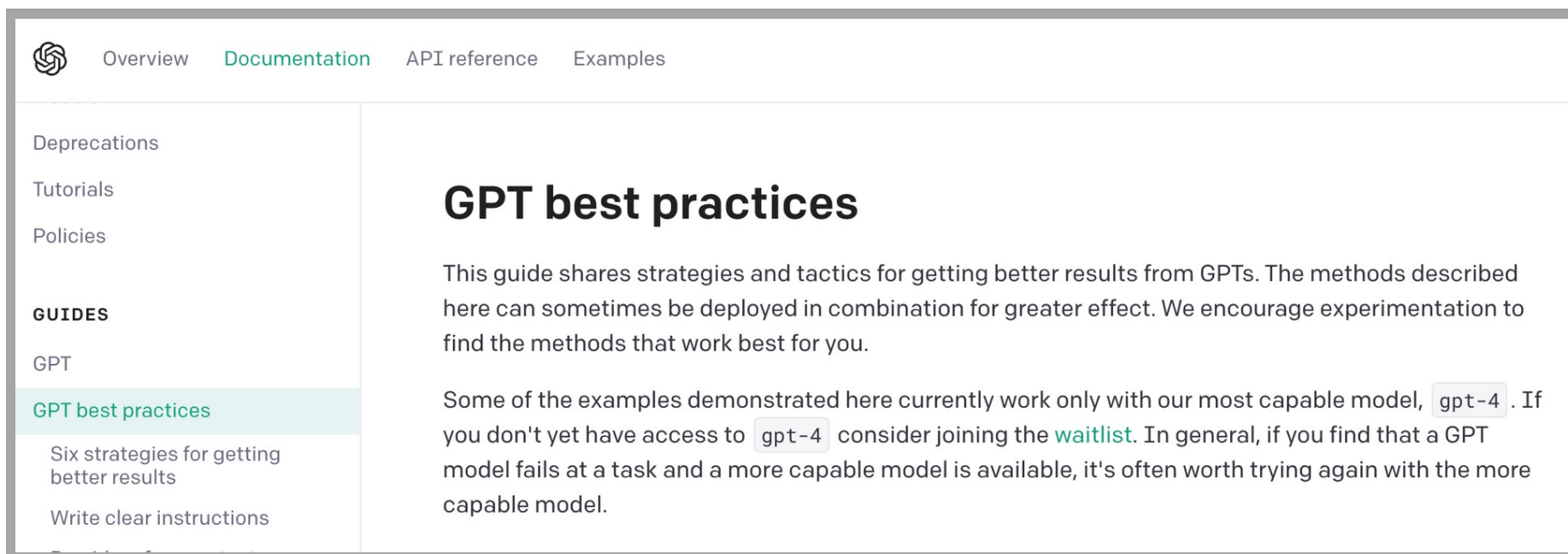
7選



1 こちらの資料について

こちらの資料では、ChatGPTの開発元であるOpenAIの公式サイトに掲載されている「**GPT best practices**」を基に、ChatGPTを活用するためのプロンプトのコツをご紹介します。

原文である「GPT best practices」は[こちらのリンク](#)からご覧ください。



The screenshot shows the OpenAI documentation website. The navigation bar includes 'Overview', 'Documentation' (highlighted), 'API reference', and 'Examples'. The left sidebar lists 'Deprecations', 'Tutorials', 'Policies', and 'GUIDES'. Under 'GUIDES', 'GPT' is expanded to show 'GPT best practices' (highlighted) and 'Six strategies for getting better results'. The main content area is titled 'GPT best practices' and contains the following text: 'This guide shares strategies and tactics for getting better results from GPTs. The methods described here can sometimes be deployed in combination for greater effect. We encourage experimentation to find the methods that work best for you.' and 'Some of the examples demonstrated here currently work only with our most capable model, gpt-4. If you don't yet have access to gpt-4 consider joining the waitlist. In general, if you find that a GPT model fails at a task and a more capable model is available, it's often worth trying again with the more capable model.'

[引用 : GPT best practices\(Open AI公式サイト\)](#)

1 ChatGPTを最大限活用するためのプロンプトのコツ 7選

1 詳細な説明をする

2 ペルソナを設定する

3 区切り記号を使用する

4 具体例を提示する

5 回答の長さを指定する

6 考える時間を与える

7 複雑なタスクを分解する



1

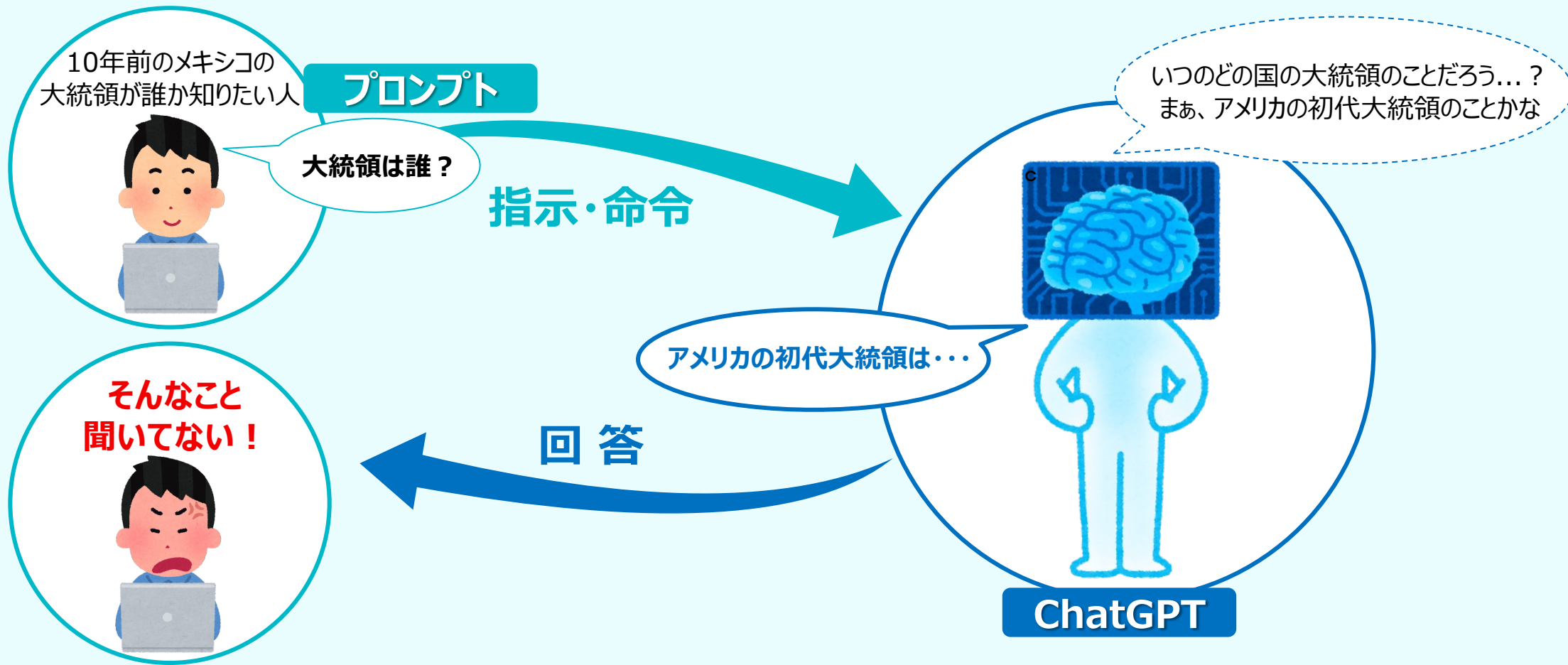
詳細な説明をする



ChatGPTには高度なAIが
使われていますが、
さすがに心や思考を読むことはできません...

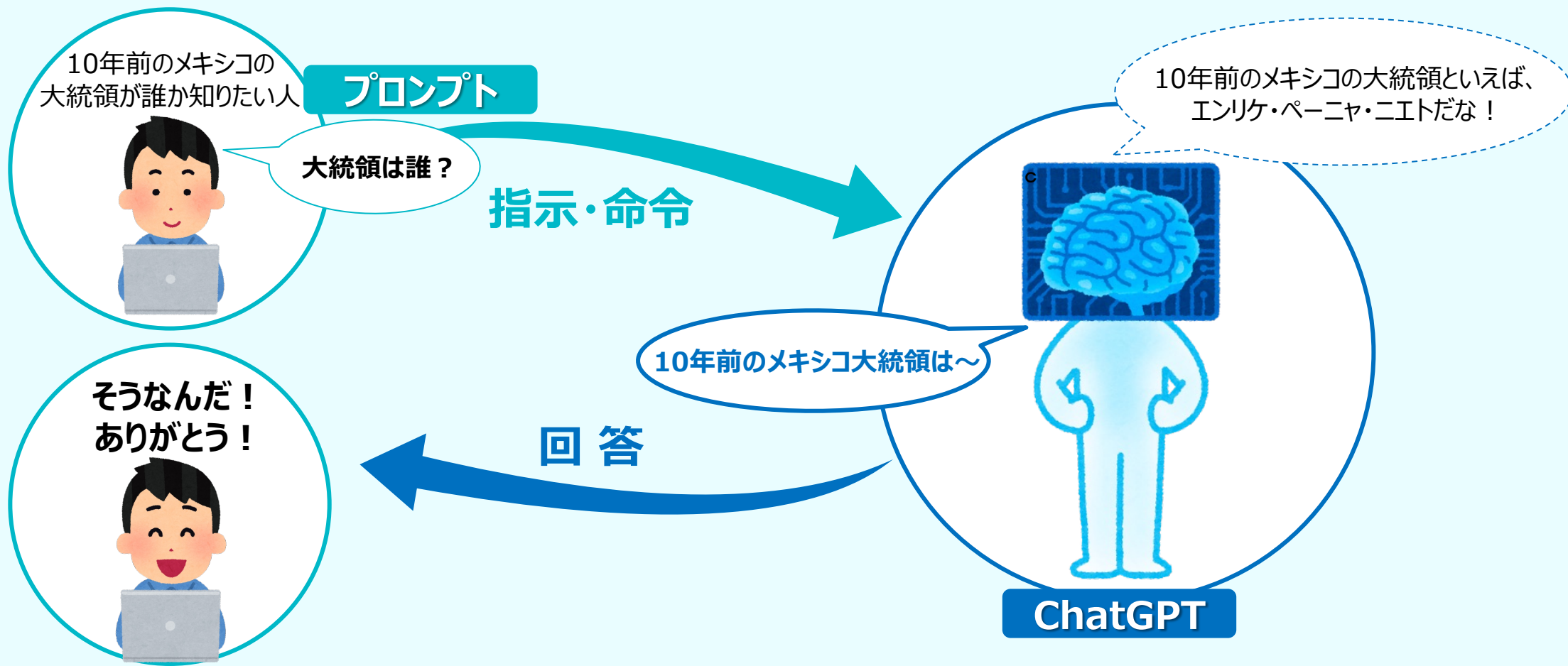
なので、的確な回答を得るためには
具体的かつ詳細な説明が必要
となります！！

1 ChatGPTに詳細な説明をしないと....



説明がない部分は **ChatGPTが独自の判断で回答**

1 その一方で、詳細な情報を与えることで...



望んだ回答を得られる可能性が高くなる！！

1 実例：詳細な説明をしないと...

「偶数・奇数を判定する Rのコード を取得したい」と仮定



偶数・奇数を判定するためのコードを書いてください



もちろん、偶数・奇数を判定するためのシンプルなPythonコードを以下に示します。

python

Copy code

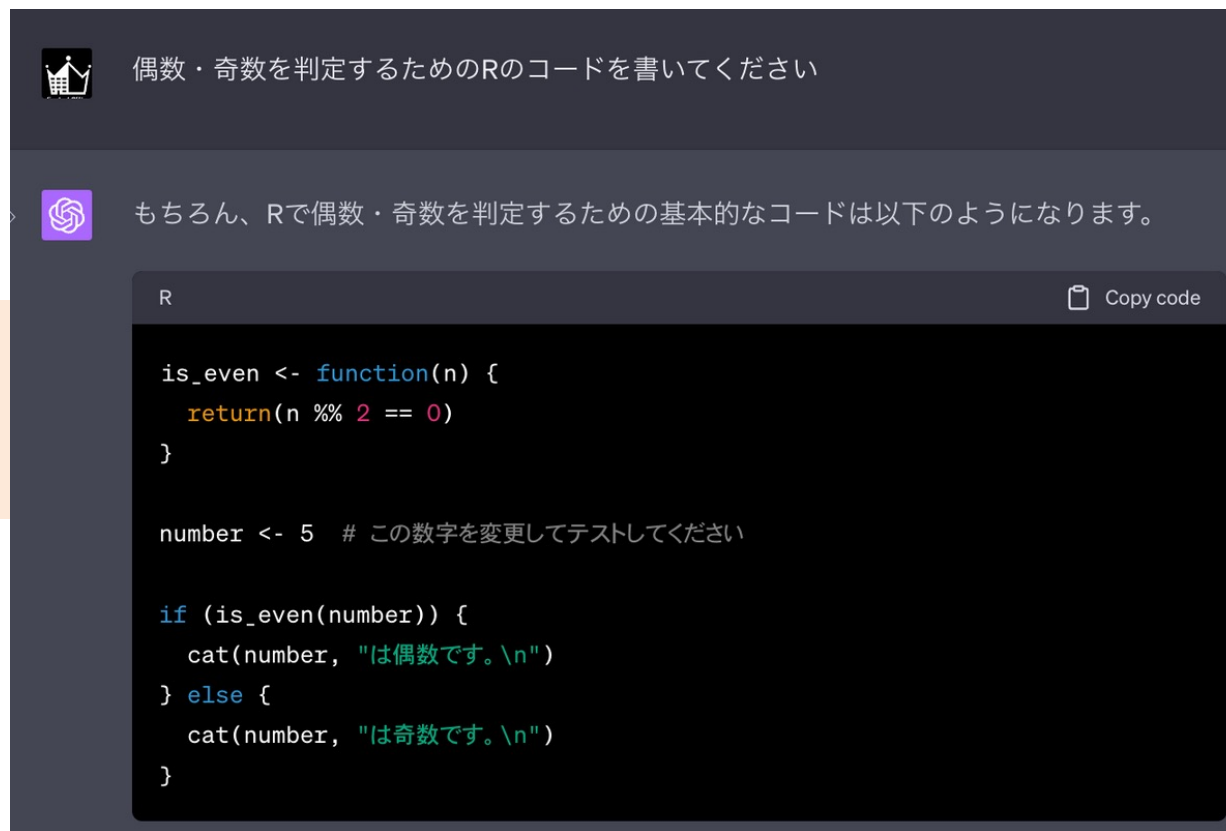
```
def is_even_or_odd(number):
    if number % 2 == 0:
        return "偶数"
    else:
        return "奇数"

# 使用例
number = int(input("数字を入力してください: "))
print(f"{number}は{is_even_or_odd(number)}です。")
```

言語の指定がないため、Pythonのコードで出力（望まない回答）

1 実例：詳細な説明をすることで...

「偶数・奇数を判定する **Rのコード** を書いて」と詳細に説明



The screenshot shows a chat interface with two messages. The first message, from a user with a crown icon, asks for R code to determine even and odd numbers. The second message, from a bot with a purple logo, provides the code. The code defines a function `is_even` that returns `n %% 2 == 0`. It then sets `number <- 5` and uses an `if` statement to print "は偶数です.\n" if the number is even, and "は奇数です.\n" otherwise.

```
R Copy code  
  
is_even <- function(n) {  
  return(n %% 2 == 0)  
}  
  
number <- 5 # この数字を変更してテストしてください  
  
if (is_even(number)) {  
  cat(number, "は偶数です.\n")  
} else {  
  cat(number, "は奇数です.\n")  
}
```

要望通りにRでコードを出力！



2

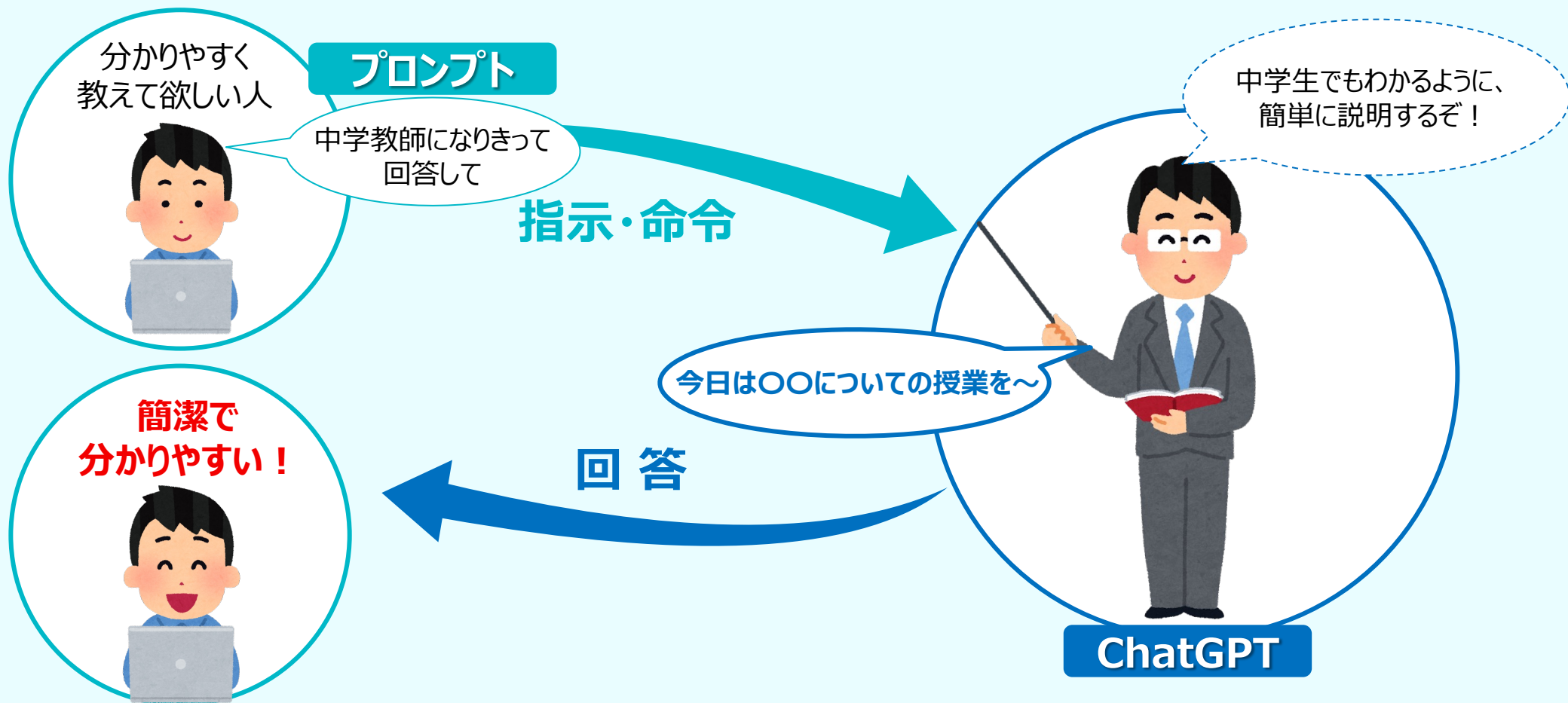
ペルソナを設定する



ChatGPTから期待する回答をもらうために
ペルソナを設定することも有効です

**この方法を使うことで、より一貫性のある
回答を得ることが可能になります。**

2 例えば、中学校の先生を演じてもらうことで...



中学生でも理解できるくらい簡単に説明！

2 実例：ペルソナを指定しないと...

「フィボナッチ数列について」**分かりやすく** 教えてほしいと仮定



フィボナッチ数列について教えてください



フィボナッチ数列は、最初の2つの数が0と1で、次の数が前の2つの数の合計である数列です。数列の初めは次のようになります：0, 1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, ... と続きます。具体的には、 n 番目のフィボナッチ数は、 $n-1$ 番目と $n-2$ 番目のフィボナッチ数の合計として定義されます。この数列は、自然界の多くの現象、特に生物学や植物学での成長パターンと関連しています。

数学が得意でない人には少し難しい説明が...

2 実例：中学校の数学の先生を演じてもらおうと...

「フィボナッチ数列について」**分かりやすく** 教えてほしいと仮定



あなたは中学の数学の先生です
フィボナッチ数列について教えてください



もちろん、生徒のみなさん！

フィボナッチ数列は、面白い数の並び方をしている数列のことを指します。最初は0と1から始まり、次の数は前の2つの数を足したものになります。だから、0, 1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, ... と続いていきます。例えば、2は1と1を足したもの、3は2と1を足したもの、というように進んでいきます。

この数列は、自然の中でよく見られる形やパターンと関連していることで有名です。例えば、花や貝の形などにこの数列のパターンが見られることがありますよ。数学の中でこんなに自然と関わりが深い数列は珍しいので、とても興味深いですね！

中学生にも理解できるくらいに、わかりやすく説明！



3

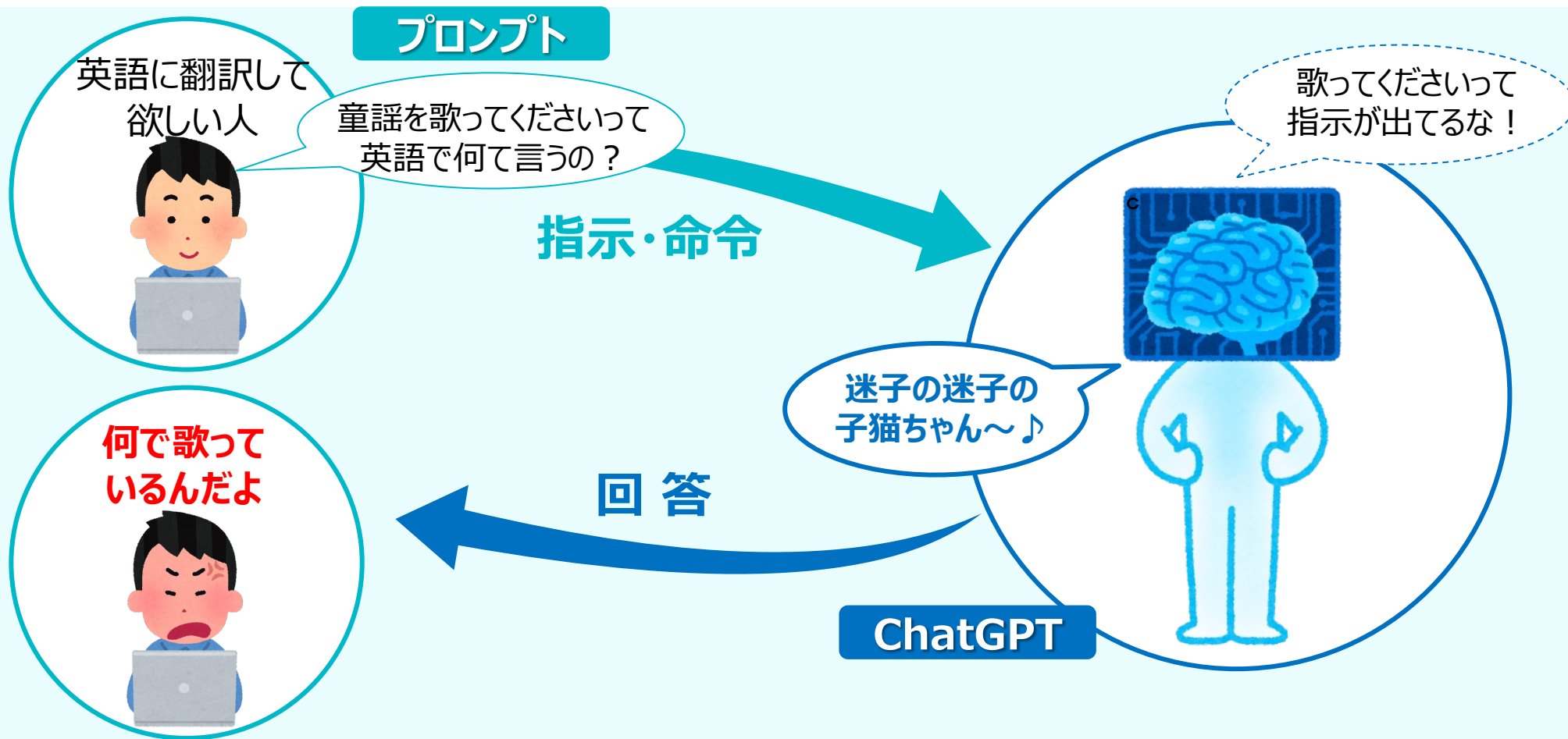
区切り記号を使用する



ChatGPTは区切り記号がない場合、
要約や翻訳すべき内容と指示を混同して
誤った回答を返してしまう可能性があります

**なので、要約や翻訳を依頼するときは、
区切り記号を使うと効果的です。**

3 区切り記号を使わずに翻訳をお願いすると...



指示と翻訳を混同してしまう可能性がある

3 実例：区切り文字を使用しないと...

冒頭からの3行 を英語で翻訳して欲しいと仮定



私は中学の数学の先生です
来月の授業でフェルマーの最終定理についての授業を行います。
そのため、中学生でもわかるようにフェルマーの最終定理について教えてください
この文章を英語に翻訳してください



まず、フェルマーの最終定理について中学生向けの説明を行います。

フェルマーの最終定理の説明:

フェルマーの最終定理は、フランスの数学者ピエール・ド・フェルマーによって1637年に発表されました。彼は、次のような方程式:

$$x^n + y^n = z^n$$

翻訳したい文章を指示と誤認して、期待しない返答が...

3 実例：区切り文字を使用することで...

冒頭からの3行 を英語で翻訳して欲しいと仮定



「私は中学の数学の先生です
来月の授業でフェルマーの最終定理についての授業を行います。
そのため、中学生でもわかるようにフェルマーの最終定理について教えてください」
「」で囲まれた文章を英語に翻訳してください



「私は中学の数学の先生です
来月の授業でフェルマーの最終定理についての授業を行います。
そのため、中学生でもわかるようにフェルマーの最終定理について教えてください」

の英語訳は：

"I am a middle school mathematics teacher. I will be teaching about Fermat's Last Theorem in my class next month. Therefore, please explain Fermat's Last Theorem in a way that middle school students can understand."

翻訳して欲しい文章を正しく認識し、期待した返答が！



4

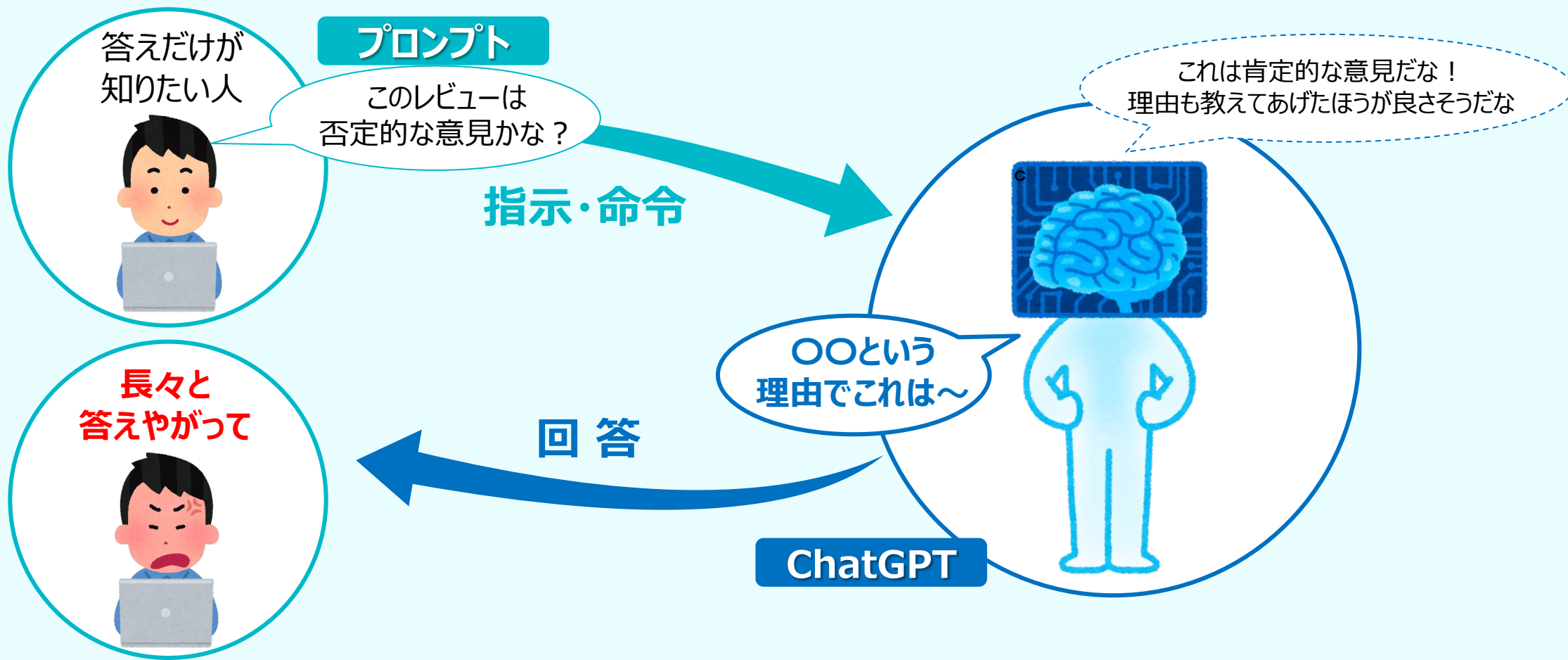
具体例を提示する



特定の形式での回答がほしい場合や、
文章だけでは説明が難しい時は、
具体的な例を出すことも有効です

**この方法を使うことで、ChatGPTから
期待する形式の回答を得やすくなります。**

4 ChatGPTに具体例を示さないで....



ChatGPTに回答形式を任せることになってしまう

4 実例：回答形式の具体例を提示しないと...

「肯定的 or 否定的の **答えのみ** を知りたい」と仮定



「今度は友達とも来たいです！」という意見は肯定的な意見ですか？それとも否定的な意見ですか？



「今度は友達とも来たいです！」という意見は肯定的な意見です。この文は、その場所やイベントなどに再度来たいという意向を示しており、さらに友達も一緒に連れて来たいという意思が込められています。従って、その場所や活動に対するポジティブな評価や気持ちを示していると言えます。

望んでいない形式で回答が...

4 実例：回答形式の具体例を提示すると...

「肯定的 or 否定的の **答えのみ** を知りたい」と仮定



「今度は友達とも来たいです！」という意見は肯定的な意見ですか？それとも否定的な意見ですか？

以下の解答例に基づいた形式で回答してください

美味しかった：肯定的

不味かった：否定的

二度と来ない：否定的



今度は友達とも来たいです！：肯定的

望んだ形式の回答が得られる！



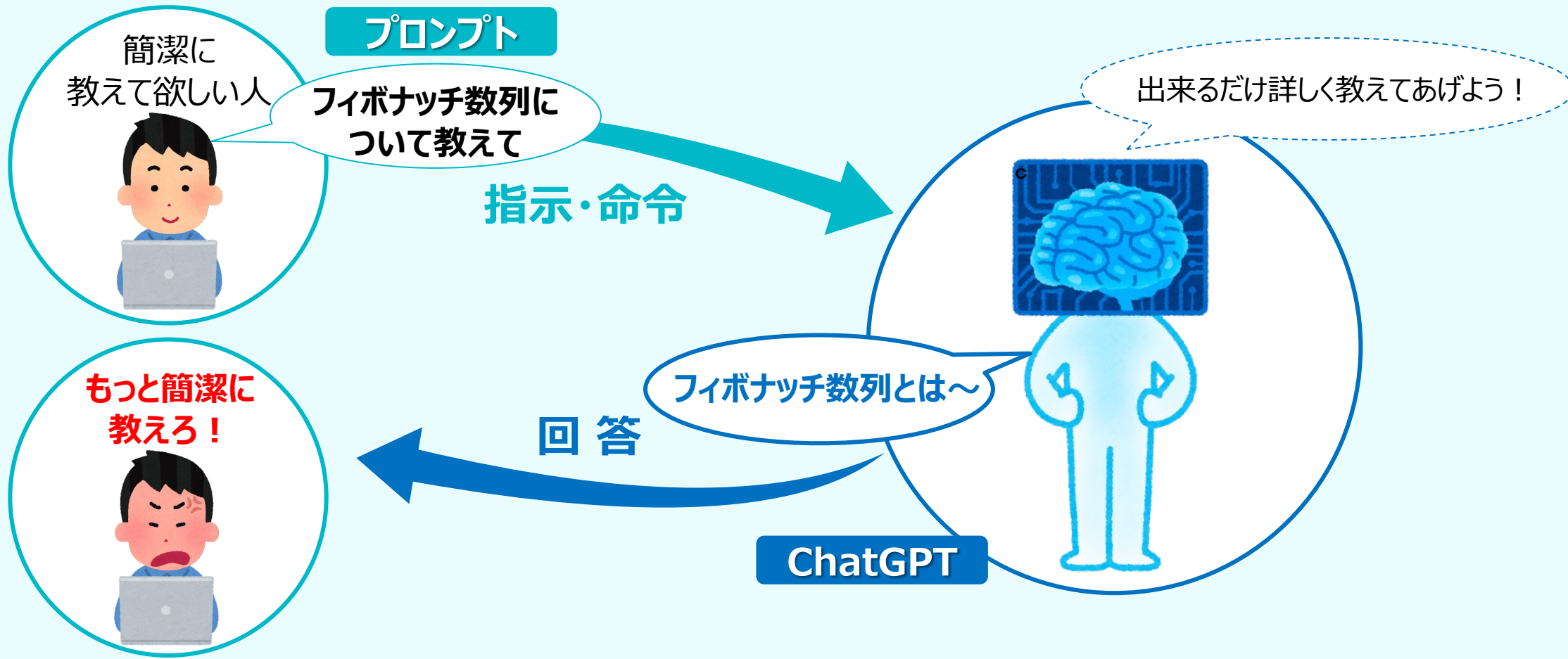
5 回答の長さを指定する



ChatGPTに回答の長さを指定することで、
必要な情報を適切な範囲で得ることが
できます。

**なので、詳しい回答が欲しい時は長い
文字数を、簡潔な回答を希望するときは
短い文字数を指定することが有用です。**

5 ChatGPTに回答の長さを指定しないと....



ChatGPTに回答の長さを任せることになる

5 実例：文字数の指定をしないと...

「フェルマーの最終定理」について 簡潔に知りたい と仮定



フェルマーの最終定理について教えて



フェルマーの最終定理は、数学の中でも特に有名な問題の一つで、17世紀のフランスの数学者ピエール・ド・フェルマーによって提唱されました。フェルマーは、彼の著作『アリスマティカ』の余白に、以下の方程式に関する注釈を書きました。

$$x^n + y^n = z^n$$

この方程式について、 n が2より大きい正の整数の場合、 x, y , および z が正の整数であるような非自明な解は存在しない、と彼は主張しました。フェルマーは「私はこの驚くべき定理の真に素晴らしい証明を見つけた」ともコメントしましたが、その証明は彼の死後も見つからないままでした。

このため、数学者たちは数世紀にわたりこの問題の解決に挑戦し続けました。多くの特殊なケースでフェルマーの最終定理が正しいことが示されましたが、一般的な証明は長らく得られませんでした。

1994年、イギリスの数学者アンドリュー・ワイルズが、エリプティック曲線とモジュラー形式という先進的な数学的概念を駆使して、この定理の全般的な証明を達成しました。ワイルズのこの業績は、数学界において大きなセンセーションとなりました。

ワイルズの証明により、フェルマーの最終定理は350年以上の謎からついに解明されたと言えます。この問題の歴史は、持続的な研究と数学的な創造力の重要性を示しています。

定理についてだけでなく、歴史的背景も含まれた詳しすぎる回答...

5 実例：文字数の指定をすることで...

「フェルマーの最終定理」について 簡潔に知りたい と仮定



フェルマーの最終定理について80文字で教えて



フェルマーの最終定理は、 $x^n + y^n = z^n$ が $n > 2$ の場合、整数解を持たないという主張。
350年の謎を1994年にワイルズが証明した。

指定した文字数の範囲内で簡潔に要点だけを絞った回答！



6

考える時間を与える



ChatGPTも人間と同じく、
考える時間が長ければ回答の精度が
上がり、求める内容の回答が
得やすくなります。

**なので、期待通りの回答を得るためには、
考える時間を与えることが有効です。**

6 人間も簡単な問題でも考える時間がないと...

17×28を3秒で答えて！

3秒は無理...



じゃあ、30分考えて良いよ

それなら余裕！



6 ChatGPTも同様に考える時間が必要！

この計算式合ってる？

即答は無理...



じゃあ、計算する時間を取って良いよ！

最初に自分で計算....

答えが一致した！



6 実例：考える時間を与えないと...

簡単な計算問題 の正誤を確認したいと仮定（ $60x+10$ が正解）



学生の回答

$$10x + 25x + 10 + 25x = 55x + 10$$

学生の回答の正誤について、「正しい」か「正しくない」だけ教えてください



学生の回答は「正しい」です。

簡単な計算問題も間違えることが...

6 実例：考える時間を与えると...

簡単な計算問題 の正誤を確認したいと仮定（ $60x+10$ が正解）



学生の回答

$$10x + 25x + 10 + 25x = 55x + 10$$

学生の回答の正誤について教えてください

ただし、事前に自分でも同じ問題を解いてください



了解しました。まず、与えられた式を計算してみます。

$$10x + 25x + 10 + 25x$$

$$= 10x + 25x + 25x + 10$$

$$= 60x + 10$$

学生の回答は $55x + 10$ ですが、正しい答えは $60x + 10$ です。

したがって、学生の回答は正しくありません。

回答の精度が上がる！



7 複雑なタスクを分解する



ChatGPTは複雑なタスクを処理するのがあまり得意ではありません。

なので、複雑なタスクは単純なタスクに分けて依頼することことが有用です。

7 ChatGPTは複雑なタスクは苦手...

100年後の今日は何曜日？

複雑なタスクは苦手...

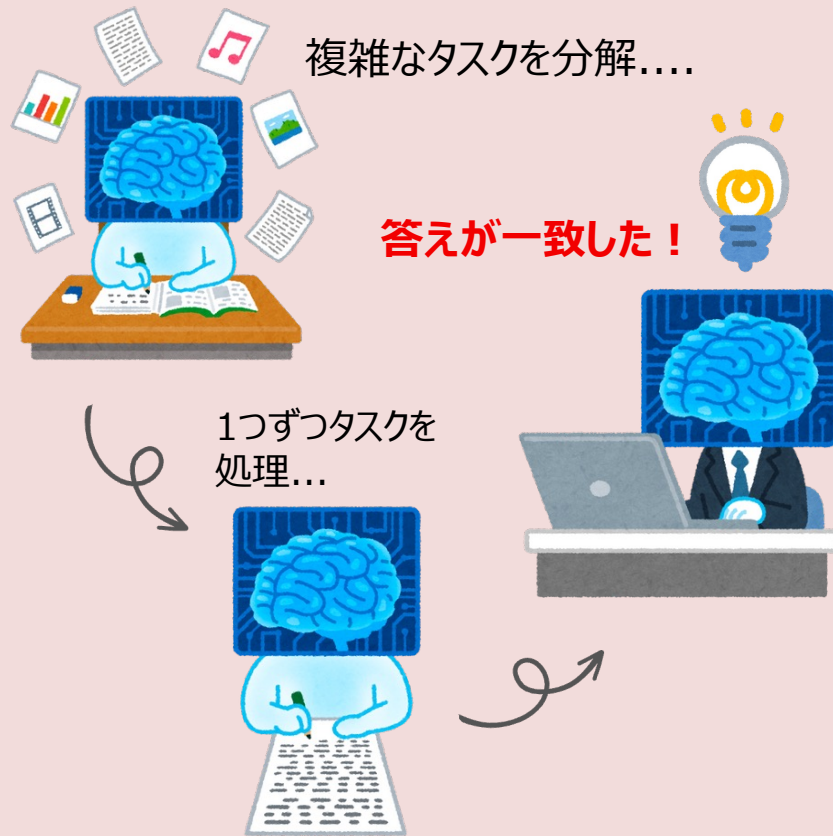


では、タスクを分解したから
1つずつ解いていって！

複雑なタスクを分解....

答えが一致した！

1つずつタスクを
処理...



7

実例：複雑なタスクを分解しないと...

日付の計算のタスクを依頼



2024年8月30日の365日前は？



2024年8月30日の365日前は、2023年8月30日です。

一見合っているように見えるが、閏年が考慮されてない...

7 実例：複雑なタスクを分解すると...

日付の計算のタスクを依頼



2024年8月30日の365日前は？

まずは2024年が閏年かどうかを考えてください

その後に、1年が何日あるかを考えてから、365日前を計算してください



了解しました。

まず、2024年は4で割り切れるため、閏年です。閏年では2月に29日があります。それを考慮すると、1年の日数は366日となります。

次に、2024年8月30日から365日前を計算します。

閏年の2024年は366日なので、1年（366日）前の2024年8月30日は、2023年8月29日になります。

したがって、2024年8月30日の365日前は、2023年8月29日です。

タスクを分解することで正しい結果が得られた！



まとめ

7 ChatGPTから良い結果を得るためのコツまとめ

1 詳細な説明をする

2 ペルソナを設定する

3 区切り記号を使用する

4 具体例を提示する

5 回答の長さを指定する

6 考える時間を与える

7 複雑なタスクを分解する



人に仕事を依頼する時に似ている！？

結論

ChatGPTに良い回答をもらうためには、

初めて人に仕事を頼むときと同じ感覚で

質問・依頼することが大切！！